

研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所
茂原市東郷2300-1TEL 0475(24)9721・FAX 0475(23)4820
H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>
メール kenkyujo@beach.ocn.ne.jp

「千葉県教育の現状と課題について」 ～中長期的な展望に立った人材の育成～

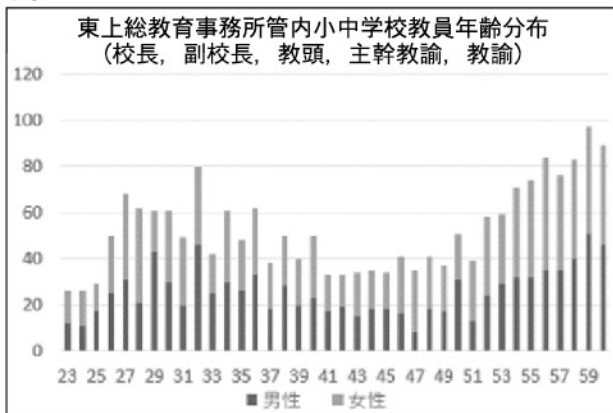
千葉県教育庁東上総教育事務所
所 長 吉 田 洋 一

1 はじめに

この4月に南房総教育事務所次長から、東上総教育事務所長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。
東上総教育事務所は運営方針としてSECを掲げ、『4つのS（スマイルを忘れず、スピード感をもって、サポート、サービスをを行う）』『エキスパート』『コンプライアンス』を意識しながら、教育事務所は学校の応援団であることを忘れずに取組を進めてまいります。どうぞ御理解、御協力をお願いいたします。

2 管内の教員の状況

さて、東上総教育事務所管内の小中学校の教員（校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭）の年齢分布は下図に示すとおりです。これは県全体の分布と似た状況になっています。



50歳台と新採から10年位が多く、中堅層の30代後半から40代が少ない状況にあります。

ちなみに、50歳台は全体の39%、40歳台は19%、30歳台は26%、20歳台は16%になっています。

今後10年の間にベテラン層が退職し、毎年新規採用者が1000名を超えている状況から、さらに若手教員の割合が増えていくこととなります。

ここでの課題は3点考えられます。

- (1) ベテランの教育実践の継承
これまで学校を支えてきたベテランの先生方の教育技術をいかにこれからの世代に受け継いでいくか。
- (2) 学校のリーダーや管理職候補者の養成
中堅層が少ない中で、学校の核となり、さらには管理職候補となる人材をいかに育成するか。
- (3) 若手教員の力量の向上
新規採用者が増える中で、教員としての資質や能力をどのように高めるか。

これらの課題への対応には、個人の努力も当然ですが、組織で取組を進めることが重要と考えます。

学校毎の取組、市町村教育委員会や山長夷の枠組の中で

の取組、また、教育事務所も含めた県教育委員会での取組などです。

各学校においては、教育実践の継承とチームを意識した組織的・計画的な取組や対応が重要と考えます。

3 学校訪問から感じること

5月中旬から学校訪問が始まりました。

これまで学校訪問を通して感じることは、本当によく努力され、素晴らしい実践をしている先生方が多くいるということでした。

特に、ベテランの先生方の授業には思わず引き込まれてしまうことがあります。このようなベテランの先生方の授業力をぜひ次の世代に引き継いで欲しいと感じています。

中でも、ベテランの方の長年の間に培ってきた子どもとの関わり方や表現、授業規律、子ども達をいかに授業に巻き込んでいくかという部分を学んで欲しいと思います。これは、指導案では表せません。短い時間でもいいので、ベテランの方の授業をたくさん参観して、授業の雰囲気作り方などを学んで（盗んで）いただきたいと思います。

また、若手や中堅層の先生方も若さ溢れる一生懸命さの伝わる授業をしている方が多くいます。ICT機器を駆使して、子どもの興味関心を高めるなど、新しい教育方法を探っている先生もいます。

このような先生方の教育実践を互いに開き合うことで、ベテランと若手が補完しあい、さらに授業力の向上を目指していただきたいと思います。

また、学校によっては、中堅のリーダーを中心に若手研修チームを作り、ベテランの教員がサポートするなどの組織的な実践をしている学校もあります。

校内研修も研究主題への取組とは別に、ベテランの先生の得意な分野を研修の中で継承する取組をしている学校などもありました。今後とも各学校でOJT(On the Job Training)で育つ仕組みを創造していただきたいと思います。

若手教員の育成は喫緊の課題であり、組織的・計画的に進めることが求められています。その育成を基盤に全ての先生方がそこにに関わり、ベテラン、中堅、若手が相互に力量を高め合う学校文化や風土をぜひ創造していただきたいと思います。

4 人材育成をサポートする体制づくり

各学校での人材育成の取組が充実することはとても重要ですが、市町村教育委員会でも様々な特色ある研修の取組を進めています。長生地方教育研究所の取組なども、様々な形で人材育成を進めていただいています。県教委や教育事務所としましても、各種研修の機会を用意しています。事務所管内では「スクールリーダー養成講座」「若手教員育成研修会」「学力向上学習会」などを実施しています。

東上総管内の学校、市町村教育委員会、教育事務所が思いを一つにして管内の人材育成に皆で取り組んでいきましょう。それが「すべては子ども達のために」につながると思っています。



「学習指導要領の改訂と実施について」

千葉県教育庁教育振興部指導課
主幹 片岡 通有

1. 学習指導要領改訂の方向性

子供たちが活躍するであろう21世紀の社会は知識基盤社会であり、新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増していくことが、前回改訂のときにも示されていたが、近年顕著となってきたのは、知識・情報・技術をめぐる変化が加速度を増し、情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展するようになってきていることである。

人工知能が様々な判断を行うなどの革新的変化に象徴される、想像以上の大きな変化がおこる社会の中では、子供たちが受け身で対処するのではなく、その変化を受け止め、身の周りに生じる様々な問題に主体的に向き合うことが期待される。また、その過程を通して、多様な他者と協働して力を合わせながら自らの可能性を発揮し、それぞれの状況に応じてより良い解決方法を見つけていくことが大事である。

本年3月31日に、幼稚園教育要領及び小・中学校学習指導要領が告示されたが、今回の改訂は、予測困難な時代の近未来社会を見据えて、子供たち一人一人に急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備える学校教育の実現を目指すものである。

2. 社会に開かれた教育課程

変化の激しい社会を生きる子供たちが、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるためには、学びのある学校が社会や世界に開かれた環境であるとともに、教育課程もまた社会とのつながりを大切にすることが必要である。それぞれの学校が、学ぶことと社会のつながりを意識し、どのような資質・能力を身に付けられるようになるのかを教育課程において明確にしながら、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視する必要がある。

このように社会とのつながりの中で学ぶことにより、子供たちが自らの人生や社会をよりよく変えていこうとする意欲を育むことになると考える。

近未来社会を見据えて、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、社会と連携及び協働しながらその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となるのである。

3. 育成すべき資質・能力を明確にした教育課程

今回の改訂では、子供たちが身に付けるべき資質・能力を次の3つの柱で再整理している。(※表1)

各学校においては、この資質・能力の3つの柱に基づき、各教科等を通じて育成しようとする資質・能力がどのようなものなのかを明らかにした上で教育課程を編成していく必要がある。

ここで改めて教育課程について確認すると、“教育の目的や目標を達成するために、学校教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画のこと”であり、その

編成主体は各学校である。

表1 「育成すべき資質・能力」

- ① 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識及び技能」の習得）
- ② 理解していること、できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成）
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

そこで、留意すべき点だが、学校で編成する教育課程は、子供たち一人一人に育みたい資質・能力を育むための教育計画であるから、特定の教科等や課題のみに焦点化した学習プログラムを提供するものではないということである。教員の中には、自らの専門教科に注力するあまり、他教科等の内容や他の教員の取組に対する関心が希薄になることがある。また、教科等の学習においては、現代的な課題に対して、社会とのつながりが意識されず進められたり、横断的な学習とならなったりする場合がある。

しかしながら、育成すべき資質・能力は特定の教科や単元等により育まれるものではない。子供たちに求められる資質・能力を育成する上では、各教科等の学習とともに、教科等横断的な視点に立った学習が重要であり、各教科等における学習の充実はもとより、教科等間のつながりを捉えた学習を進める必要があることを認識しなければならない。

また、各学校の教育課程においては、教科等において何を教えるかという内容は重要であるが、これまで以上に教科等を学ぶ本質的な意義やその内容を学ぶことを通じて「何ができるようになるか」を明確にすることが求められるのである。

4. カリキュラム・マネジメントの確立

学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現には、教科等相互の関連付けや教科横断的な学習の充実、習得・活用・探究のバランスを工夫した単元構成などが教育課程上必要となる。

そこで、各学校は、必要な教育内容を組織的に配列したり、各教科等の内容と教育課程全体とを往還させる取組をすすめるながら、人材や予算、時間、情報などといった必要な資源を再配分するカリキュラム・マネジメントをすすめることになる。

この取組をすすめる上で大事なことは、全ての教職員が参加することである。校長を中心としつつ、教科等の縦割りや学年を越えて、全ての教職員が、教育課程を軸として、学校の教育課程における自らの役割を認識し、取り組む体制づくりをすすめるなければならない。

このようなカリキュラム・マネジメントの確立は、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ることになるのである。

長生郡・茂原市小・中学校「研究主題と研究仮説」

長生郡・茂原市小中学校の「研究主題と研究仮説」について紹介いたします。各学校の研究に役立てていただければと思います。

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
東郷小	児童が自ら学び考え、表現する学習指導の在り方 ～国語科の学習を通して～	「調べる」プロセスにおいて、児童の多様な活動や思考を引き出す工夫をすれば、課題の解決に必要な情報を活用する力が高まるだろう。	国語科
豊田小	主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合い、学びを深めることができる児童の育成 ～「学び合う学習活動」を生かした単元づくりを通して～	児童に付けたい力を明確にした言語活動を設定し、学習課題の工夫と、「学び合う学習活動」を生かした単元づくりをすれば、児童一人一人が主体的に課題に向き合い、自分の思いや考えを持ち、それらを伝え合い、学びを深めることができるだろう。	国語科
二宮小	一人一人が輝き、進んで表現する力を身に付けた児童の育成 ～算数科における学び合いを通して～	算数科において、以下の点を重視しながら単元を構成し、算数的活動の場を工夫すれば、自分の考えを持ち、友だちと学び合い、思考力を高めていくことができるであろう。 (1) 自分の考えを言葉、式、図などで表す算数的活動の場の設定 (2) 目的を明確にした学び合いの場の設定	算数科
茂原小	進んで人とかかわり合う子どもの育成 ～外国語の活動を通して～	音声や基本的な表現に慣れ親しむ場面において、児童が興味・関心をもつことができる内容や活動を発達段階に応じて工夫すれば、進んで人とかかわり合う子どもが育つであろう。	外国語活動
茂原西小	主体的に学び、表現する力を高める児童の育成 ～国語科「書くこと」「読むこと」の指導を通して～	(目標) 一人一人が課題を持ち、自分の思いや考えを自信を持って表現する児童を育てる。 (仮説) 「書くこと」「読むこと」を関連付けて児童の言語活用能力を高めれば、一人一人が主体的に課題を解決できるであろう。また、自信を持って自分の思いや考えを表現できるであろう。	国語科
五郷小	どの子にも「わかる」「できる」楽しさを味わわせる学習指導 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた算数科授業を通して～	1 活動的段階→映像的段階→記号的段階を踏まえた授業構成をすれば、どの子にも「わかる」「できる」楽しさを味わわせることができるであろう。 2 数学的な考え方と結びついた筋道だった表現を用いた話し合い活動を取り入れれば、自分の考えを深めたり、学び合ったりできる児童が育つであろう。	算数科
鶴枝小	仲間とかかわり合いながら、わかる喜び、できる喜びが味わえる授業づくり	1 児童の実態や発達に応じた段階的な学習を構成すれば、学習の見通しや自信を持つことができるようになり、わかる喜び、できる喜びが味わえ、有能感を高めることができるであろう。 2 仲間とのかかわり合いが持てる場の設定を工夫すれば、仲間とのほげまし合いや助け合いが増え、意欲が高まり、わかる喜び、できる喜びが味わえるであろう。	体育科 国語科 算数科
萩原小	確かな国語力を育む言語活動の授業づくり ～「読むこと」の学習を中心に～	身に付けさせたい力を明確にし、適切な言語活動を位置付けて単元を構成すれば、児童の国語力を育てる授業をつくることができるだろう。	国語科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
中の島小	自ら考え、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成 ～算数科における指導法の工夫を通して～	習得したことを生かして思考できるような手立てを工夫すれば、自ら考える力が身に付き、意欲的に学習に取り組むことができるであろう。	算数科
本納小	コミュニケーション能力を育む指導方法の工夫	自分の思いや考えを伝えたいくなるよう問いや手立ての工夫をすれば、お互いの思いや考えを交流することができ、コミュニケーション能力を育むことができるであろう。	全教科
新治小	自分の考えを持ち、進んで表現する力を育む算数指導 ～見通しの持たせ方と筋道立てて考えるための算数的活動の工夫～	1 基礎・基本の定着を図り、既習事項を活用させる場を充実させれば、児童は見通しを持って学習を進めることができるであろう。 2 算数的活動を通して思考する場の工夫をすれば、児童は自分の考えを筋道立てて、進んで表現することができるであろう。	算数科
豊岡小	多様な手段で表現し、ともに課題解決する児童の育成	1 既習事項を使って、多様な考えを持ち、それを様々な方法で表現できれば、考える楽しさを味わう算数科学習になるであろう。 2 児童が考えた様々な解決方法を共有し、良さの視点から比較検討する場を設定すれば、考えが深まるとともに、より良い方法を追求し課題解決することができるであろう。	算数科
東部小	読む力を高める国語科学習指導	1 児童一人一人が目的意識を持って学習に取り組むことができるような学習計画を立て、単元で目指す姿を例示すれば、読む視点が明確になり、文章を読み取る力を高めることができるであろう。 2 友達の意見に共感したり、新たな視点に気づいたりすることができるような意見交換の機会を意図的に設ければ、話し合いで得たことを自分の考えに生かすことができ、文章を読み深めることができるであろう。	国語科
緑ヶ丘小	思考力・判断力を高める算数指導のあり方 ～相互が学び合う言語活動を通して～	1 子どもが「わかりたい」「解きたい」と思える導入場面の工夫をするとよいだろう。 2 互いの解決方法の中から、算数的に価値の高いものを見出していける展開場面の工夫をするとよいだろう。 3 今後の学習に生かしていける終末場面の工夫をするとよいだろう。	算数科
東浪見小	多様で効果的な道徳教育の指導方法の取組 ～道徳性を高めるための場の設定の工夫～	より深く考え、伝え合うための場の設定や指導方法を工夫すれば、道徳性が養われ、子どもたちが社会を生き抜くために必要な思考力や判断力などを身に付けることができるであろう。	道徳
一宮小	主体的に行動できる児童の育成 ～いのちの大切さを考える防災教育を通して～	(低学年) 災害に関心を持ち、災害時には大人の指示に従うなど適切な行動がとれるようにする。 (中学年) 災害により引き起こされる危険に関心をもち、自ら危険を回避する行動がとれるようにする。 (高学年) 災害の特性や防災体制について理解し、災害時には自ら危険を回避し、ほかの人の役に立つ行動がとれるようにする。	安全に関する教科・領域
白潟小	進んで地域とかかわり、ふるさとを愛する児童の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習指導の工夫～	1 身近な人々や地域とのかかわりを通じた「体験的・探究的な学習活動」のあり方を探る。 2 誰もが「わかる・できる学習」を実現させる指導のあり方を探る。 3 表現力育成のための「共有化」のあり方を追究し、実践を集積させる。	全教科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
南白亀小	分かる・できるを実感できる 児童の育成 ～算数的活動の工夫を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習の中で算数的活動を段階的に工夫して取り入れていくことで、児童は算数を学ぶことの楽しさや意義を実感し、基礎的・基本的な知識、技能を定着させることができるであろう。 2 考える必然性のある問題設定、多様な考えを議論できる問題設定をし、「考える体験」を児童の実態に合わせて意図的に取り入れていくことで、児童は考えることによって解決する喜びを味わい数学的な思考力を育むことができるであろう。 	算数科
関小	一人一人が輝き、「わかる」 喜びを味わえる授業づくり ～算数科の学習を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的・基本的内容の習得を図る手立てや個に応じた支援方法を工夫していけば、「わかる」喜びを一人一人に味わわせることができるだろう。 2 ノート指導や比較検討場面での話し合いの仕方を工夫していけば、自分の考えを分かりやすく表現し、互いに学び合う力が育つだろう。 	算数科
長柄小	「人と積極的に関わり、より よい学級を目指し、主体的に活 動する児童の育成」 ～発達段階に応じた指導法のあ り方～	発達段階に応じた学級活動の授業実践と学級内の様々な活動の場を設定すれば、学級の諸問題に気づき、話し合い実践していく中で、児童が友達や先生と積極的に関わりながらよりよい学級を目指して、主体的に活動ができるであろう。	学級活動
日吉小	主体的に学び、確かな学力を 身に付けた児童の育成 ～算数科の学習を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 算数科の授業において、自分の考えを互いに交流させながら課題解決をめざす学び合い活動を行えば、主体的に学ぶ児童の育成につながるであろう。 2 みのりタイムや家庭学習の習慣化を通して学習習慣の確立を図れば、基礎・基本の確実な力がつくであろう。 	算数科
長南小	思いやりの心や感謝の気持ち を育み、ふるさとを愛する児童 の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 長南町の自然や人、文化財のすばらしさに気づかせればよいであろう。 2 地域の人々との交流を大切にすればよいであろう。 	福祉教育
土睦小	主体的・協働的に学び合う 「読むこと」の学習の在り方 ～言語活動の充実を図る授業づ くりを通して～	付きたい力を明らかにした言語活動を設定し、自分の読みをもって主体的・協働的に学び合えば、「読むこと」の力の向上につながるであろう。	国語科
瑞沢小	主体的に学び、伝え合う力を もった児童の育成 ～国語科「書くこと」における 対話的な学び・振り返りを中 心に～	<ol style="list-style-type: none"> 1 他者との協働における対話的な学びの中で、自らの考えを深めることができれば、伝え合う力を更に高めることができるであろう。 2 今日の学びや次の見通しをもてる振り返りをすることで、主体的に学ぶ児童が育つであろう。 	国語科
一松小	自ら学び、確かな学力を身に つける児童の育成 ～全教科及び防災教育の学習を 通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 保小中一貫教育を見据えながら、学習形態を工夫したり、学習プロセスを理解させたりすることで、自ら学ぶ意欲あふれる児童が育成されるであろうと考える。 2 今まで継続してきた防災活動（避難訓練、防災集会、教科指導等）をさらに発展させることで、防災意識を高められるだろうと考える。 	安全に関する 教科・領域

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
八 積 小	自ら考え、主体的に学ぶ児童の育成 ～単元を貫く言語活動を通した 国語科指導の在り方～	単元を貫く言語活動を通して、自力解決の場・協働的な学習の場・活用の場を授業に設定し、それぞれの場における指導の工夫をすれば、一人一人の児童が主体的に、学ぶことができるだろう。	国 語 科
高 根 小	自ら考え、表現する児童の育成 ～国語科における授業づくりを 通して～	1 単元で児童に付けたい力を見極め、付けたい力にふさわしい言語活動を単元に貫いて位置付ければ、読む目的が明確になり、思考力・表現力を高めることができるであろう。 2 言語活動が児童の課題解決の過程となるように単位時間の授業構成を工夫し、思考や表現を促す効果的な交流活動を位置付ければ、主体的に思考・表現しながら課題を解決することができるであろう。	国 語 科
東 中	生きる力を支える確かな学力を持つ生徒の育成 ～基礎的・基本的学習内容の定着と活用を通して～	基礎的・基本的学習内容の定着と活用を図り、学ぶ楽しさを実感できるわかる授業を実践すれば、学習に対する意欲が高まり、確かな学力を身に付けることができるであろう。	全 教 科
富 士 見 中	自分の考えを持ち、進んで表現できる生徒の育成 ～多様な表現活動・客観的な生徒理解を通して～	1 自分の考えを持ち、深めるための「話し合いの場」を設定し、話し合い活動を充実させれば、思考し表現する力が高まるだろう。 2 課題の発見と解決の方法を明らかにし、「考えを表現する場」を設定すれば、主体的協働的に学ぶことに意欲を持って取り組むことができるであろう。 3 学校環境適応尺度の測定を通して不適応要因を明らかにし、授業の中で支援の手立てを講ずれば、意欲的に取り組む生徒の育成がはかれるであろう。	全 教 科
茂 原 中	豊かな心と確かな学力を身につけた生徒の育成 ～授業力の向上を通して～	豊かな人間関係づくりを土台として「主体的・対話的で深い学び」を推進し、「道徳教育」「キャリア教育」を充実させ、指導力の向上・学習習慣の確立を図る指導を工夫すれば、「豊かな心」が生まれ、「確かな学力」を身につけた生徒を育成できるであろう。	全 教 科
南 中	自ら学ぶ生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善～	各教科の特性を生かしながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点を持ち、授業改善を行うようにすれば、自ら学ぶ生徒の育成につながるであろう。	全 教 科
本 納 中	未来に向けた学びの創造 共に考え、伝え合い、表現し合う生徒の育成 ～シンク（考えを持つ）ペア・グループ（考えを伝え合う）シェア（考えを深める）3つの場の工夫～	1 安心して自分の考えや意見を発信できる学習集団づくりを行えば、ペアやグループでの学習活動が活性化し、共に考え、伝え合い、表現し合う生徒の育成ができるであろう。 2 学習の過程で、自分の考えをもち表現することや伝え合ったり、話し合ったり、実験・調査をしたりする活動の場を意識し、学んだ知識・技能を生かした授業づくりを行えば、生徒は、自分の考えを深めることができるだろう。	全 教 科 全 領 域
早 野 中	主体的に学習に取り組み、豊かな表現力を育成する指導の工夫 ～学びを深める表現活動を取り入れた学習活動を通して～	1 学習課題や学習の流れを明確にすれば、見通しを持って、主体的に学習に取り組めるだろう。 2 学習活動における学び合う場を充実させれば、自ら考え表現する力が高まるであろう。	全 教 科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
西陵中	自ら学び、思考し、表現（判断）する生徒の育成 ～アクティブラーニングの視点での授業改善を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 学ぶことに興味関心を持たせ、見通しを持ってねばり強く取り組み、自らの学習活動を振りかえさせることで、主体的な学びが実現できるであろう。 2 子ども同士の対話・協働、子どもと教員や地域の人との対話や考え方を手掛かりに考えさせることで、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できるであろう。 3 各教科で習得した知識や考えを活用して、学習対象と深く関わらせることで、問題を発見・解決したり、創造したりする深い学びが実現できるであろう。 	全教科
一宮中	豊かな心と健やかな体の育成の推進・充実を図るための教育活動の工夫 ～オリンピック・パラリンピック教育を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 すべての教科の中で、生徒が自分の考えを話したり、検討し合ったりする場面を設定することにより他者の考えを認め、より深い学びにつながるであろう。 2 オリンピック・パラリンピック教育を推進し、教育活動を工夫することにより、豊かな心と健やかな体の育成を推進し充実することができるであろう。 	全教科
白子中	自己実現に向け、自ら学び、思考し、表現できる生徒の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 ICT機器を活用するなど、学びの場の工夫・改善をすれば、生徒は進んで学び考えるようになるだろう。 2 言語活動や体験活動を学びの場に多く取り入れれば、表現する力が高まるだろう。 	全教科
長柄中	学ぶ喜びを感じ、主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～指導法の工夫・改善を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 魅力ある題材を厳選したり、教材・教具・資料の効果的な活用方法を工夫したりすれば、生徒は興味・関心を持ち、学習意欲が向上するであろう。 2 指導目標を明確にし、目標に即した具体的な評価項目を設定することで、生徒は習得すべきポイントが分かり、主体的に学習に取り組むようになるであろう。 3 話し合い活動や個人やグループで実験・調査に取り組み発表する場を充実させれば考えたり、話し合ったり、実験・調査をしたりする活動の場を充実させれば、生徒自らが問題を解決する力や表現する力が身につくであろう。 	全教科
睦沢中	主体的に学び、互いに高め合う生徒の育成 ～対話的な活動場面の工夫を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題を明確にし、学習過程の中で教え合ったり、意見を出し合ったりする場を工夫すれば、お互いに高め合い主体的に学ぶ態度が育つであろう。 2 学習のルールや家庭学習を定着させるための工夫等をすることで、生徒の学ぶ意欲を高め、主体的に学ぶ態度が育つであろう。 	全教科
長生中	「確かな学力」を身に付けた生徒の育成 ～実感を伴う「わかる授業」の確立を通して～	生徒の喜び（成就感・達成感）を伴った「わかる授業」を目指して、授業を改善・工夫していけば、学力や学習意欲が向上し、主体的な学習態度や家庭学習の習慣化につながり、「確かな学力」を身に付けた生徒が育成できるであろう。	全教科
長南中	確かな学力を持ち、よりよく生きようとする、健康で心豊かな生徒の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 各教科の授業の中で、家庭学習やドリルなど基礎学力の定着のための方策を工夫すれば、確かな学力を養うことができるであろう。 2 学び方や学習習慣の確立のための方策を工夫すれば、学習への興味・関心が高まり、課題解決の達成感を得られるであろう。 3 家庭との密接な協力・連携を図れば、学習環境が整い、学習意欲が高まるであろう。 	全教科

平成29年度長期研修生紹介



☆国語科☆
 茂原市立東郷小学校 松浦 俊介
 <研究主題>
 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す物語教材の学習
 ～発問を通して読む力を高める学習指導の在り方について～



☆保健体育科☆
 茂原市立南中学校 本吉 篤
 <研究主題>
 運動を豊かに実践することができる、ベースボール型指導プログラムの有効性
 ～系統的なソフトボールのゲームによる授業実践を通して～



平成28年度 長期研修生 研究発表会のご案内

昨年度の長期研修生の研修成果を地域で共有することを一つの目的として、研究発表会を行います。特に、教研集会での提案者となっている先生方は、レポートのまとめ方など、是非参考にしていただければと思います。多くの先生方の参加をお待ちしています。

○期日 8月9日(水) 午後2時
 ○場所 長生教育会館 2階大会議室

◇発表者◇

☆社会科☆ 一宮町立東浪見小学校 古内 忠広

<研究主題>
 児童の社会認識をはぐくむ社会科指導の在り方
 ～科学的な探求による問題解決的な学習をととして～
 <研究の概要>

第6学年の歴史学習に、ねらいに迫る探求の過程を指導者があらかじめモデル化し、それに基いて授業を行う「探求のプロセス」を設定した。

社会的事象の概念形成過程を明らかにして授業を行うことにより、多くの児童が社会的事象を関連付け、概念形成を図れた。また、プロセスに沿った資料やワークシートを用いたことで、児童自らの力で単元のまとめを書くことができた。

また、単元のまとめを活用して歴史新聞を作成したことにより、人物紹介の域を超え、学習した単元の時代に対する社会認識を反映した新聞になった。

☆体育科☆ 茂原市立茂原小学校 篠田 淳志

<研究主題>
 ゴール型ゲームにおける状況判断とサポートに関する研究
 ～オールコートゲームにおける攻守の切り替え時に着目した指導の在り方～
 <研究の概要>

簡易化されたハンドボールで状況判断やサポートに関する指導に着目し、実践した。攻守の切り替え教材の開発や教材配列の工夫、適切な指導方法についても検討した。その結果、全ての児童の判断が向上し、切り替え学習も児童に適した教材であることが分かった。単元後にハンドボールを好む児童が増えた。

☆教育臨床☆ 茂原市立富士見中学校 今井 雅浩

<研究主題>
 学校教育相談を学ぶ
 <研究の概要>

研修生5名は、千葉大学や千葉県子どもと親のサポートセンター等の講義・実習から構成される「教育臨床プログラム」の研修を受けた。本研究では、教員が行う教育相談とSCが行うカウンセリングは何が違うのかを学び、研修生の考え方や学びの変容から『学校教育相談』の考え方を整理した。さらに、変容に至るプロセスに影響した要因について話し合い、教員としての学びの在り方を考察した。

研究所の紹介

所長 蒔田 民之(長南町立長南中学校校長)

調査部

<研究主題>
 運動部活動の実態・意識に関する調査研究



岡田 弘道
 (長生村立八積小学校)
 重村 英伸
 (茂原市立緑ヶ丘小学校)
 本吉 由佳
 (茂原市立早野中学校)
 根本 尚
 (茂原市立茂原中学校)
 濱田 望
 (茂原市立萩原小学校)

昨年度実施した実態調査のとりまとめを行います。

研修部

<研究主題>
 特色ある教育活動で、生きる力を育む教育の実現を目指して



中村 寿昭
 (長南町立長南小学校)
 船見 貴之
 (長柄町立長柄中学校)
 佐藤 剛
 (一宮町立一宮小学校)
 君塚 恵理
 (茂原市立本納小学校)

「研究所だより」の発行や各種研修会の運営を行っています。

情報部

<研究主題>
 研究の深まりと校務の効率化を目指して



峰嶋 祐美
 (長生村立高根小学校)
 渡邊 耕一
 (白子町立南白亀小学校)
 村上 健輔
 (茂原市立五郷小学校)
 山口 晃
 (睦沢町立睦沢中学校)

各校の校内研究に関する資料を集め、研究所ホームページにデータベース化して掲載します。

主事 佐藤 信之(長南町立長南中学校)



長生地方教育研究所には、様々な教育書籍が保管されています。研究紀要や指導案、教育資料を閲覧したい、借りたい等、何か必要なことがありましたら、ご連絡ください。